

# 平成20年度の 事業評価概要

平成21年3月16日

# 評価対象事業

## 新規事業採択時評価

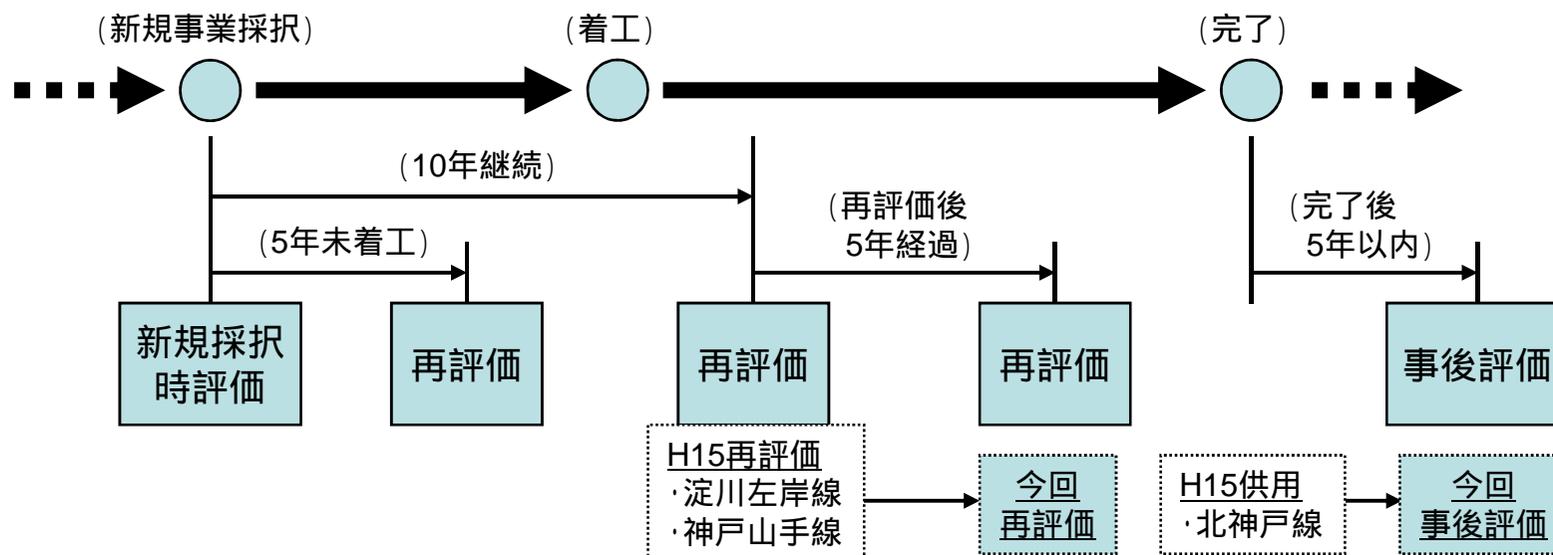
対象路線：なし

## 事業再評価

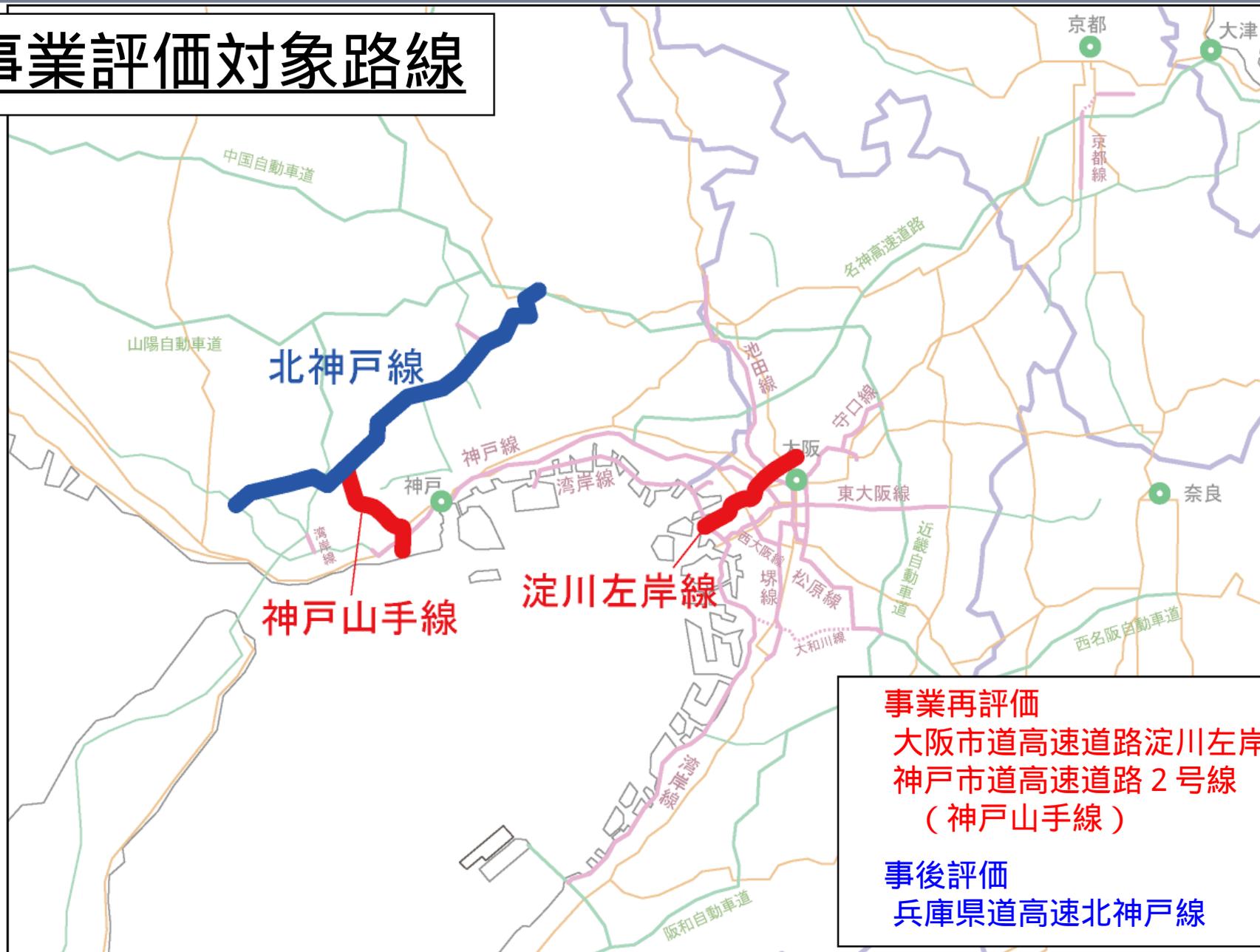
対象路線：大阪市道高速道路淀川左岸線  
神戸市道高速道路2号線（神戸山手線）

## 事後評価

対象路線：兵庫県道高速北神戸線



# 事業評価対象路線



## 事業再評価

大阪市道高速道路淀川左岸線  
神戸市道高速道路2号線  
(神戸山手線)

## 事後評価

兵庫県道高速北神戸線

# 審議の視点

## 【事業再評価】

### 再評価の視点

1. 事業の必要性等  
事業を巡る社会経済情勢等の変化  
事業の投資効果(費用対効果分析)  
事業の進捗状況
2. 事業の進捗の見込み
3. コスト縮減や代替案立案等の可能性

## 【事後評価】

### 事後評価の視点

1. 費用対効果分析の算定基礎となった要因
2. 事業の効果の発現状況
3. 事業実施による環境の変化
4. 社会経済情勢の変化
5. 今後の完了後の事後評価の必要性
6. 改善措置の必要性
7. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

出典:「道路事業・街路事業に係る再評価実施要領」  
「道路事業・街路事業に係る事後評価実施要領」

# 事業評価に関する動向

- ・ 事業評価に用いる「費用便益分析マニュアル」がH20.11に改定
- ・ 平成17年度道路交通センサスに基づき、将来交通量の見直し

## 費用便益分析マニュアル(H20.11改定)

### (主な変更点)

- ・ 走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故短縮便益について  
原単位を見直し

例えば時間価値原単位(乗用車)は、  
62.86円 40.10円/分・台 (36%)

- ・ 検討年数の見直し  
評価対象期間を40年から50年に変更

車種別の時間価値原単位(円/分・台)

車種	時間価値原単位	
	前回	今回
乗用車	62.86	40.10
バス	519.74	374.27
小型貨物車	56.81	47.91
普通貨物車	87.44	64.18

## 将来交通量の見直し

- ・ 「将来交通需要推計に関する検討会」での検討を踏まえた国土交通省推計値  
H42: 7490億台キロ/年(基本ケース(低位ケース))  
(前回推計値比 13.1%(前回推計値8620億台キロ))  
「社会資本整備審議会 道路部会 第26回基本政策部会」(H20.11.26) 資料より